



2015～2016年度 ROTARY CLUB OF TOYOKAWA HOI CLUB WEEKLY

やらまいか

会長/小野喜明 幹事/度会尚志 会報委員会/廣田 篤・中村嘉輝 例会/毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所

クラブテーマ 30周年記念事業を通じて、温故知新、上下一心
 30周年記念事業を通じて、地域や国際にお返ししよう
 30周年記念事業を通じて、友情と寛容を深めよう

事務局/豊川市豊川町辺通4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

本年度第9回 通算1401回 平成27年9月8日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	8/25 修正出席率
		61名	39名	70.9%	92.3%

ゲスト: 浜松・東三河フェニックス ヘッドコーチ 東野智弥さん 工藤 雄さん ビジター:(なし)

★会長あいさつ



ガバナー公式訪問例会が蒲郡クラシックホテルで行われました。少し出席率が悪かったので、もっと大勢の方に出席して頂きたかったです。

加藤地区ガバナーの卓話は、型にはまらず気さくな話し方で、とても良いお話だったと思います。最初に地区方針の「ロータリーの原点に学ぶ、友情と寛容の輪を拡げよう」について話され、地区行動指針として、「高潔なロータリアンを目指し、常にバッジを着用する」「例会に積極的に出席し、ロータリー活動を楽しむ」「自主的クラブの運営」「会員増強・退会防止」「地区の改善・改革」について意味について分かりやすく卓話を頂きました。中でも印象に残ったのは、ロータリアンは人から見られた時に、あの人は素晴らしい人だと思われる人間であって欲しいと言われました。

この加藤ガバナーの職業が知りたいと思って調べてみました。瀬戸市にある明治30年に創業をしたヤマキ電器(株)の3代目の会長さんです。主に赤外線ヒーターの製造販売をされています。110年という長い歴史のある老舗の会社で、昭和初期は、瀬戸なので電気の絶縁陶器を製造していたようです。現在は、息子さんが社長をされているそうです。110年

夏目雅康副会長

こんにちは。本日は小野会長がお休みなので、代行して挨拶をさせていただきます。

先週の金曜日に蒲郡RCと合同で

と言うのは凄と思います。

皆さんから応援募金を頂きました世界陸上のエキシビジョンマスターズ部門に出場した碓井さんの報告をします。8月29日に400m50～54歳部門で出場をされました。もともと世界8位という記録を持っていましたが、今回の世界陸上で7位という素晴らしい成績を残されました。残念ながらテレビの放映はありませんでしたが、YouTubeで観ることが出来ます。見ていると鳥肌が立ちます。海外の選手と比べる本当に小柄な選手です。機会があったら見て下さい。

本日の講師は、昨年度、バスケットボールbjリーグで見事優勝されました浜松・東三河フェニックスのヘッドコーチの東野さんをお迎えしています。日本バスケット協会が色々な問題を抱えて、一時は国際大会出場停止まで追い込まれましたが、ようやく解決をして新体制でスタートしたことはニュースでご存知だと思います。そして女子が先日の国際大会で、リオのオリンピックの切符を手に入れました。今日は「NEXT CHALLENGE」という事でお話をよろしくお願ひします。

★幹事報告

度会尚志幹事

例会臨時変更のお知らせ
 ガバナー月信9月号の回覧
 ガバナー公式訪問のお礼状の回覧

★委員会報告

雑誌広報委員会(野中委員)
 ロータリーの友8月9月号の紹介

★卓話 NEXT CHALLENGE (次の挑戦)

浜松・東三河フェニックス

ヘッドコーチ 東野智弥氏



初めまして、本日はお招き頂きましてありがとうございます。若輩者の私が地元の経済界の皆さんに何も申し上げることもござ

いませんが、日頃の皆様のご尽力によって、このチームが成り立っているということ、そして日本一になった報告、そして今シーズンも頑張りますという事でお話をさせて頂こうと思っております。

本当に日本一になったのも地元の皆さんの支えがあったからです。まずはお礼申し上げます。日本一になったら、またプレッシャーがやってきます。私の前に中村監督と言う名将がいらっしゃいました。2回優勝されました。その後、このチームは下降線をたどって行き、私がこのチームに来ることになりました。これもご縁だと考えました。決して簡単な状況ではありませんが、チャンスだと思いました。私はいつもチャレンジが大事だと考えています。

どんなチャレンジが私にとって大事かと言いますと、出来ないだろうと言われるようなチャレンジをするのが実は大好きです、それを達成すると何とも気持ちの良いものなのです。その証に今日は、チャンピオンになると頂けるトロフィーを持ってきました。



大阪が3回、沖縄が3回、横浜が1回、我々フェニックスが2回だったのです。このトロフィ

ーを取ってもらいたいと言われました。そんなに簡単な事ではありませんでした。1番最初の大阪の時は、6チームでやっていました。昨シーズンが22チームでしたので大変さが分かってもらえるかもしれません。そして、今シーズンが最後のbjリーグで24チームで戦います。また新たなチャレンジです。

さて、日本のバスケットが変革されつつあります。それは、全国各都道府県にチームがある訳ではありませんが、日本には47チームが存在します。NBLという団体、その下にNBDLという団体、そして我々がいるbjがあります。これがバラバラでやっていたので、これを一つにしないとダメだとFIBA(国際バスケット連盟)から言われ制裁を受けて、来シーズンから改革されます。統一リーグになるということです。サッカーの川淵さんのお力を借りました。1つのリーグになって何が良いことかという、日本が強くなる、メジャースポーツになる為だと感じています。

フェニックスというチームは、こちらにいらっしゃる大沢茂樹さんが作られて、今年50周年というところで優勝が出来たことは本当に良かったと思っています。まずはここで、優勝を決めたハイライトビデオをご覧ください。

(試合のビデオを観賞)

約1万人の歓声の中での試合をしました。私はどんな状況でも冷静に対応しないと勝てないと思っていました。1万人いても変わらずやっていました。ただ、終わった瞬間は弾け、もう興奮しっぱなしでした。涙すら出ませんでした。

さて、今日のテーマであるチャレンジについてです。いつも挑んでいる時何が私を助けてくれるエネルギーかと言いますと、『出会い』です。出会いは全てを助けてくれると言っても良いぐらいに私は感じています。私は石川県に生まれました。加賀で生まれ、バスケットで福井の北陸高校に行き、そこで日本一になりました。その後、早稲田大学・東京に行きました。その後、アンフィニ東京でトップリーグでも選手としてちょっと活躍しました。その後、アメリカに3年間コーチ留学に行きました。その時考えていたことは、日本のバスケットを変えたい。日本バスケを「強く」「メジャー」にしたいと。

アメリカの指導は全然違いました。若い子供たち、選手たちのバスケットは、皆楽しそうに一生懸命に練習をしています。これを日本の子どもたちに教えたいと思いました。それを行動に移してみました。クラッシュャーバスケットキャンプを始めました。クラッシュャーは、私のニックネームで、車がクラッシュすると同じ意味ですが、私の場合は固定概念を打ち破る：クラッシュするという意で用いています。子ども達には、Tシャツを配布して、楽しくやっています。上からモノを言っても子ども達は聞きません。18年間で全国で33都道府県の地域でやってきました。これまで3万くらいの子供達と出会うことが出来ました。私のライフワークです。今、忙しい時期ですが、休みにスケジュールを入れて全国に出掛けています。なぜ、これをやるかと言うと、一人一人に可能性に出会うという目的があります。場所は関係ありません、一人一人がダイヤモンドの原石です。何かの縁でバスケットというスポーツで影響し合うのです。私自身の修行でもあります。人間力を高めるためにバスケットを使い、原石の一人一人の子供達に、自ら「楽しく、一生懸命」続けることの大切さを伝えることが出来ればというのが私の想いで、1997年から続けています。楽しく一生懸命です。

日本に帰って来て、いろんなチームでコーチをしました。トヨタ自動車アルバルク、日本で行われた世界選手権で日本代表、JBLレラカムイ北海道、NBAサマーリーグのコーチなどの経て浜松・東三河フェニックスのヘッドコーチをすることになったのです。

実は、10数年前、OSGフェニックス時代中村監督から、これからチームを強くするから来いとよばれ、豊川に来ました。懐かしい話です。その時、体育館の壁画が新しく出来たというタイミングで、偶然OSG大沢会長とお会いすることが出来ました。それ故、今があるのだと考えています。

私にとって出会いは、支えであったり、チャレンジだったり、チャンスだったりします。その出会いこそが私自身の努力が試されるきっかけとなりうるわけです。また達成すると、また色んな人に出会えるというチャンスも生まれるという風に考えています。今日皆さんとお会い出来たことも同じです。

私のバスケットも出会いからでした。小学校3年の担任先生が新任で来られて、その先生がバスケット好きで、バスケットが大好きになりました。私の大半の人生です。その先生は、現在中学校の校長先生をしながらコーチをしています。いつも全国大会で優勝するようなチームのコーチをしています。高校生の時のバスケットは、とにかく厳しかったです。インターハイで日本一になりました。一日中練習をし、いつ寝ていたかという授業中だったくらいの感じです。日本のバスケットは少しおかしいと思い始めたのが、実はこの頃からでした。大学では、OBの方がコーチで1週間に1回しか来ないのですが、お前は生意気だ、言う事を聞けというコーチングスタイルなわけです。トップリーグでも理不尽の連続。この指導では到底世界とは戦えないし、つまらないと感じる様になったわけです。そしてこのような指導法では、子ども達、選手は自発的にチャレンジしなくなるとも思いました。

その嫌な思いでと言う名の出来事は、私の次のチャレンジとなりました。渡米です。

もとを正すと、実はこの日本バスケットの指導方法を変えようとしていた友人がいました。その大きな出会いは、高校時代のライバルだった同級生です。彼は、高校を卒業して、このままでは日本バスケットはダメだと直ぐにアメリカの大学に留学しました。でも1年後、体調不良を訴え帰国し、闘病生活を余儀なくされ21歳の若さで他界しました。この「出会い、そして別れ」こそが、実は私に勇気を与えてくれました。今の私も支えてくれています。

いつも人という出会いが影響しています。出来事という出会いが私のエネルギーに変換され、「チャレンジ」ということになることを考えるようになりました。

話は少し変わりますが、時間は私にとって大切です。私自身、日本のバスケットを変えたいと思ってきました。変えたいと思ったら、まわりもどんどん変わってきました。日本バスケット界が変革されつつあります。実は日本男子バスケットは、オリンピックに1976年のモントリオールから出場していません。一方女子は、3大会ぶりにリオオリンピックの出場を決めました。私の夢は、日本のバスケットを強くする。メジャーなスポーツにすることです。生きている内にこれを達成したいと考えてます。

この大きなチャレンジは、まずフェニックスからと考えています。だからこそ昨シーズンのヘッドコーチとしての初「優勝」は私にとって重要でしたし、次のチャレンジがあります。私にとって出会いこそが夢実現のために必要不可欠な要素なのです。

今日会う人が、将来どうなるかも分かりませんので、出会いを大事にしていきたいと思っています。この場にいる皆さんも新しい大事な出会いであります。こんな私ですが、これからも今後ともよろしくお願ひします。そして、どうぞ浜松・東三河フェニックス応援して下さい。

浜松・東三河フェニックスでの「ここまで」と「これから」を少しお話ししますと、運良く昨シーズンで達成することが出来ました。何事においても3年で結果を出さないといけないと考えておりましたので安堵している所です。日本一になりました。次にやらないといけないのは、2015-2016のシーズン2連覇ということです。bjリーグは今シーズン11年で幕を閉じます。先ほど申し上げた様に、大阪が3回、沖縄が3回、横浜が1回、フェニックスが3回なので、4度目のチャンピオンを取りに行きたい。「一歩先出るぞ」これをやってやります。そしてBリーグ：統一リーグにいきます。そこで1部の18チームに浜松・東三河フェニックスは入りました。トップリーグです。一つのリーグになったわけですから、新聞にも大きく取り上げられるはずですし、テレビにもどんどん放送されるようになればと考えています。

その後のNEXT CHALLENGEは、オリンピックに行きたい。日本代表の監督になりたいと考えています。言ったらやらなければなりません。だからやってみようと思っています。そのために何をするかを考えます。このように私がやることは、地域の活性化にもなるだろうと思います。このような場で言うのは、勇気が入ります。日本一を率いるにはこれくらい大きなことが言えないと日本一になれないとも考えています。今日お招き頂くのも、優勝したからだろうと思っています。

さて、昨シーズンのチームから2015-2016の新しいチームになります。太田敦也という地元豊川の出身で日本代表の選手がいます。昨日の夜、台湾から帰って来てばかりで、今日は朝から練習をしています。私も帰って2時45分から

練習をします。この練習が大変です。大変でないと優勝できません。

何を大事にしているかと言うと、いつもプラスの言葉でツキを呼ぶということです。プラスの言葉、マイナスの言葉がありますので、言葉はいつも自分の耳は聞いているので、だからこそ自分はプラスの言葉を使わないといけないと思ひ、自分の言葉で言っていれば、自分が聞いているという理解をしなげなければならないと言ひ聞かせています。そうするとツキが来ます。ついついマイナスの言葉やため息をついてしまいます。その時は、プラスの言葉を言い悪い言葉を消します。色んなことが起こりますが、何でもチャレンジです。調子の悪い日もあります。下り坂の時もあります。ですが、「楽しく、一生懸命」プラスの言葉を言って、登り坂を登っていきたいです。たまに「まさか」という坂に出くわすこともあります。まさに、昨シーズン「まさか」を2回登ったというそんな試合を展開することが出来ました。

さらに難しいであろう2連覇4度目の優勝にチャレンジです。なぜ2連覇が難しいと言われるかは、毎回2試合あります。弱いチームはディフェンディングチャンピオンに2回のうち1回勝てば良いと挑戦してきます。それに打ち勝たなければならない、簡単でないです。どんな状況でも、何事にもあきらめない姿勢を子ども達にも見せなければならないという使命があります。我々が本気になって頑張れば、地元の皆様や子ども達の笑顔が作れると思っています。それらが私のNEXTチャレンジです。ご清聴ありがとうございました。フェニックスの応援の程何卒よろしくお願ひします。



浜松・東三河フェニックス

<http://bj-phoenix.com/>

会報担当：廣田 篤会員・中村嘉輝会員